

第4期鎌倉市環境基本計画の進捗管理方法について

1. 第4期環境基本計画における進捗管理の方針

第3期鎌倉市環境基本計画と、地球温暖化対策地域実行計画（区域施策編：気候変動地域適応計画を含む）などの環境政策課が所管する環境個別計画では、それぞれ『PDCA サイクル』に基づいて事業の進捗状況や評価指標の達成状況を確認し、結果を取りまとめて公表するとともに、施策や計画の見直しを行ってきました。

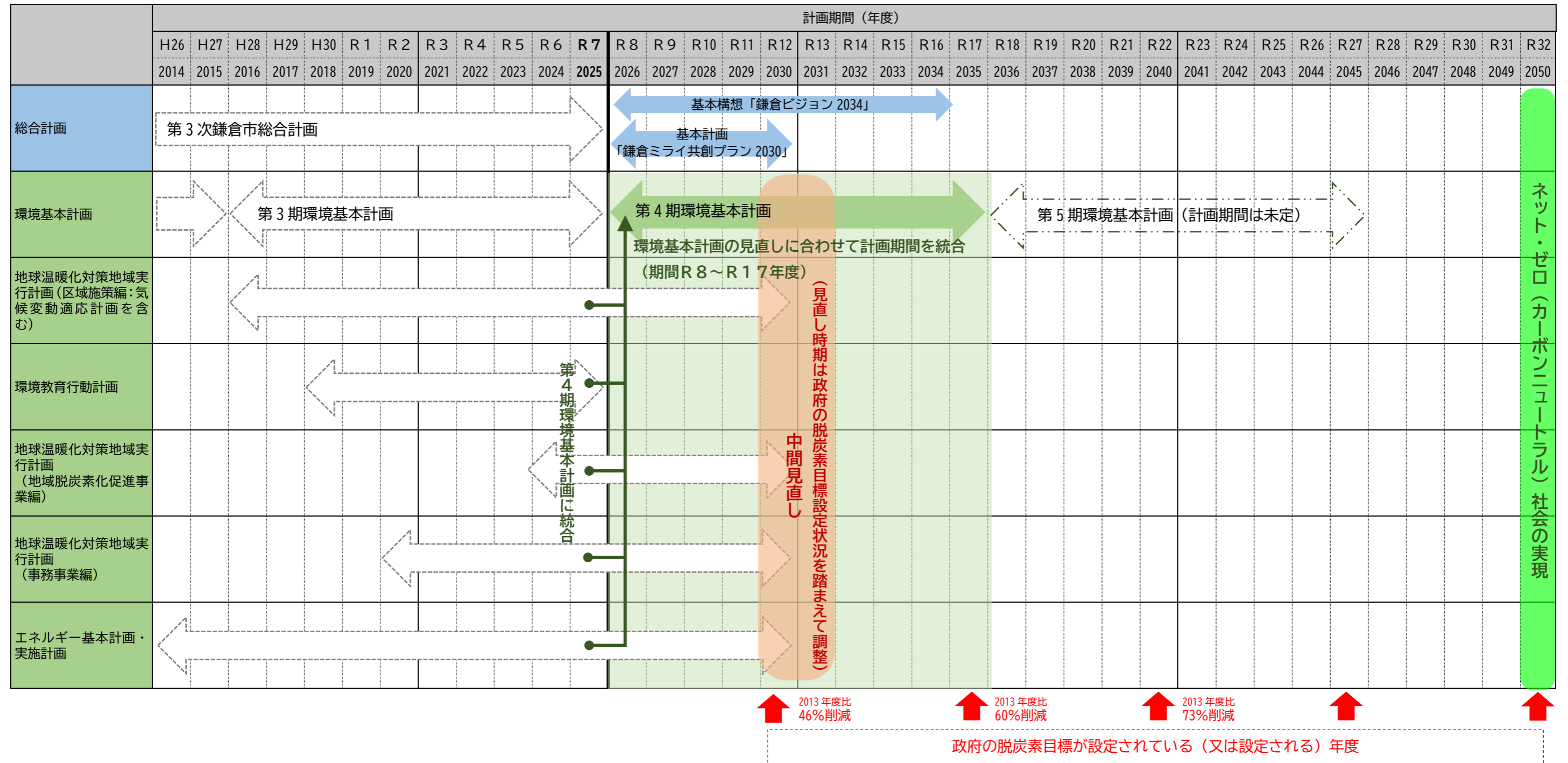
今回、第4期環境基本計画の策定では複数計画を統合することから、全ての計画の計画期間を統一し、『PDCA サイクル』による進捗管理や結果のとりまとめ及び公表を「環境白書」に一本化することとします。

■複数計画の環境基本計画への統合と新計画の計画期間について

↔：総合計画の計画期間

↔：第4期環境基本計画の計画期間

↔：現行計画と現行の個別計画の計画期間



ネット・ゼロ（カーボンニュートラル）社会の実現

2. 他自治体における環境の関連の計画を統合した環境基本計画の進捗管理の方法

環境基本計画に複数の環境関連計画を内包した自治体における計画の進捗管理方法について、代表的な事例は以下のとおりです。

他の事例も含め、多くの自治体で推進体制や進捗管理手法、結果の公表の枠組みに大きな違いはありませんでした。

推進体制：行政（庁内推進体制を含む）が環境審議会の意見を聞きながら、市民や事業者と協働して環境保全活動を進めて行くこととしています。

進捗管理：PDCAサイクルを基本としており、計画全体のPDCAサイクルの中に、DOの部分で年次報告でのPDCAを入れ込んだ事例もありました。

結果公表：計画の進捗状況とその評価結果については、毎年の実績をとりまとめ、HPで公表しています。

大津市環境基本計画（第3次）

【包含している計画】

- ・アジェンダ 21 おおつ（地球温暖化対策実行計画（区域施策編）、地域気候変動適応計画、生物多様性地域戦略）
- ・大津環境人を育む行動計画（環境教育等行動計画）
- ・環境にやさしい大津市役所率先実行計画（地球温暖化対策実行計画（事務事業編））

①計画の推進体制

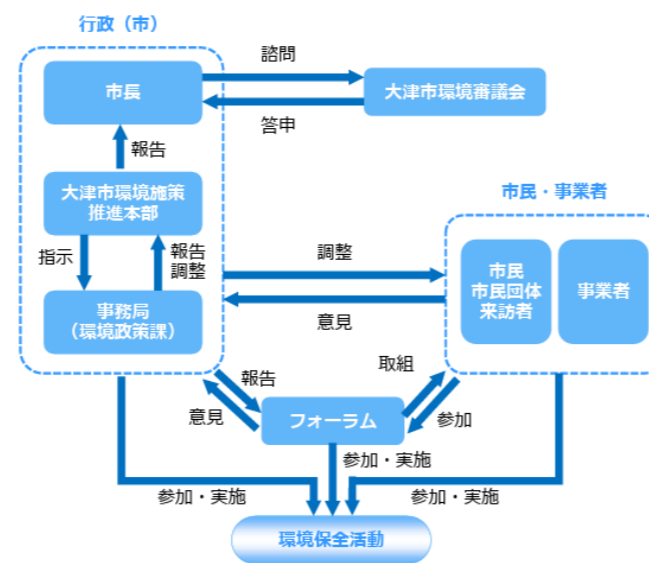
「環境基本計画」は大津市環境審議会の意見を聴きながら、大津市環境施策推進本部において、施策の実施・運用、実施状況の点検・評価を行います。

また、必要に応じた見直しを行うと共に、おおつ環境フォーラムの協力のもと、市民・事業者・市が連携した取組を進めます。

「アジェンダ 21 おおつ」の推進体制は「環境基本計画」と同じです。

「環境にやさしい大津市役所率先実行計画」は事務局と各部署の委員が進捗管理を行います。

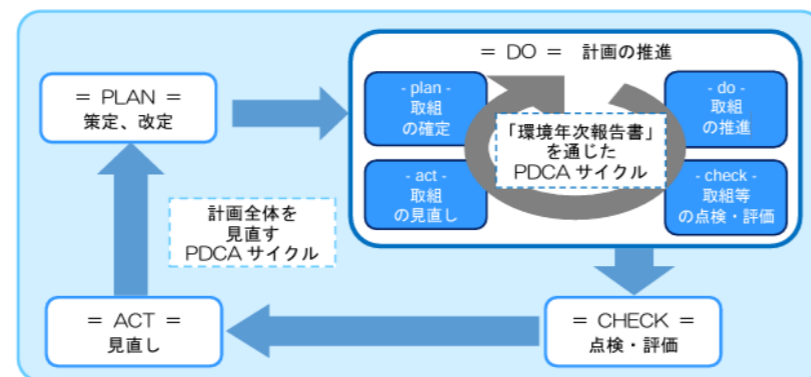
「大津環境人を育む行動計画」は「大津環境人を育む行動計画推進委員会」という内部組織で進捗管理を実施します。



②進捗管理手法

「環境基本計画」の進捗管理では、PDCAサイクルに基づき、評価指標に対する進捗状況及び環境施策の取組結果の評価・点検を行い、環境施策の推進を図ります。

また、実行計画編の進捗管理も環境基本計画の進捗管理に基づき、実施することとしています。



③評価結果の公表

「環境基本計画」と関連計画の進捗状況は、環境年次報告書である「大津市の環境」にまとめ、市のHPで公表しています。

小平市第三次環境基本計画

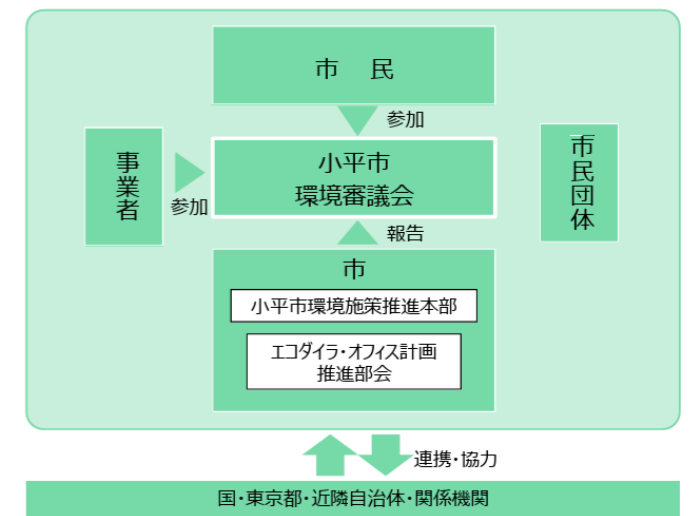
【包含している計画】

- ・小平市地域エネルギービジョン（地球温暖化対策地域実行計画（区域施策編））
- ・小平市生物多様性ビジョン（生物多様性地域戦略）
- ・エコダイラ・オフィス計画（地球温暖化対策実行計画（事務事業編））

①計画の推進体制

計画の推進にあたっては、「小平市環境審議会」へ進捗状況を報告し、取組の課題等について意見を伺い、以後の施策展開に反映することとしています。

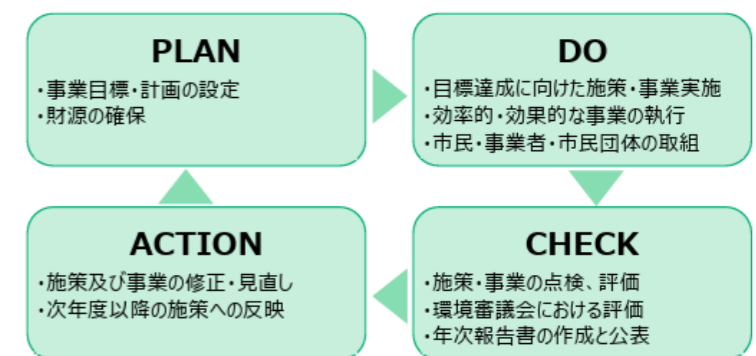
「エコダイラ・オフィス計画」についても環境基本計画に記載された推進体制のもと進捗管理を行うこととしています。



②進捗管理手法

環境施策の取組状況や効果に客観性を持たせるため、本計画の点検・評価を年次報告書として作成、また、明らかになった課題等を速やかに事業展開に反映するためのPDCAサイクルで施策の継続的な改善を進めます。

また、計画の途中段階においても、社会情勢の大きな変化等に応じ、適宜計画の見直しを行うこととしています。



③評価結果の公表

「環境基本計画」（小平市地域エネルギービジョン、エコダイラ・オフィス計画も含む）の進捗状況は、環境年次報告書である「小平市の環境」にまとめ、市のHPで公表しています。